

令和元年度 非核都市宣言平和事業実行委員会
第9回議事録（要旨）

日 時：3月5日（木）午後6：15～

会 場：武蔵野市役所 813 会議室

出席者：委員 12 名（中里委員長、小餅副委員長、牛田委員、大上委員、北山委員、
酒徳委員、柴田委員、島津委員、田村委員、寺尾委員、中島委員、中田委員）
事務局 3 名

1 開会

2 議題

（1）令和2年度憲法月間記念作品実行委員会賞の選出について【資料1】

- ・事務局より憲法月間記念作品の応募状況および憲法月間記念行事について説明。
- ・絵手紙の実行委員会賞を選定。

（2）令和2年度夏季平和事業について【資料2】

- ・事務局より夏季平和事業案について説明。

【委 員】市役所の行事は映画が多いことが良い点だと思う。「はだしのゲン」などは子どもの頃によく観た古典映画と言えるが、高齢者にも若い人にも観てほしい作品。

【委 員】空襲に遭った人の体験談は今までも取り上げてきたが、戦争体験者には戦地に行った人も含まれると思う。5月の吉田裕先生のご講演に内容が通じるので、戦地に行った人の話を聞くのも良いのではないか。

【委 員】ミニコンサートは一般向けイベントか、子ども向けイベントか。

【事務局】選曲によってどちらにもできると思う。

【委 員】音が出るが、場所はスイングホールになるか。

【事務局】楽器を使うので、スイングホールで開催することになる。

【委 員】お盆の時期なので、帰省で人が少なくなると思う。ターゲットや内容について研究する必要がある。一般市民は「原爆の子」「黒い雨」と聞いてどんな映画か想像がつかないかもしれない。アピールするには、何か別のプログラムと組み合わせる必要がある。

【委 員】映画上映も良いが、観ることが目的になってしまうと、DVDを借りて家で観るのと同じになってしまう。具体的には思いつかないが、付加価値をつけるが良い。

【事務局】開催時期については、オリンピックとパラリンピックの間に開催できるように日程を設定した。次回の会議でご提案いただければと思う。

（3）令和2年度平和の日イベントについて【資料3】

- ・事務局より平和の日イベント案について説明。

【委 員】吉永さんに依頼することは昨年度から話が出ていたので、もし吉永さんの都合が良ければ戦後75年事業にお招きする方としてふさわしいと思う。お呼

びできるかどうかで会場も変わる。武蔵野市ではまだお呼びしたことがないので、ぜひ一度お願いしたい。早めに依頼してほしい。

【委員】平和の日イベントが10回目の節目として、平和のつどいで植樹できないか。長崎市の被爆クスノキはすでに植樹したので、被爆アオギリなどの広島の木を植えたい。

(4) 令和元年度平和啓発事業の記録【資料4】

・事務局より令和元年度に行った平和啓発事業について説明。

(5) その他【資料5】

・事務局より連絡事項について説明。

(6) 1年間をふりかえって

【副委員長】おひとり一言ずつ感想をお願いします。

【委員】今年初めて参加して、様々な世代の方と交流することができた。良い経験となった。

【委員】今年はイベントにあまり協力できなかったので、来年度も参加できた場合は、もっと関わりたい。

【委員】長く参加させていただいている。また何かの機会にお目にかかることがあれば、よろしくお願いしたい。

【委員】夏の取組みが充実していた。事務局の尽力が大きかったと思う。世の中には難しい問題が多くある。世代が変わる中で、戦争と平和に対する考え方が変わっている。被爆者に会って話を直接聞くことも困難になっている。子どもたちは、中国や韓国と日本との関係に大きな影響を受けている。いじめ問題と平和を関わらせる必要がある。また、LGBTなどの少数意見も取り入れながら、もう少し広く平和事業を考えないといけないと思う。

【委員】今まであまり平和について考えてこなかったのが勉強になった。12月には、武蔵野ふるさと歴史館の中島飛行機に関する企画展に子どもたちを連れて行った。学芸員に1時間ほど解説いただいた。研修会に参加できなかったのが残念。

【委員】戦時中に空襲で4人の先輩が亡くなったことを武蔵野女子学院の中学2年生に話してほしいと頼まれた。生徒に「平和って何ですか？」と聞かれて、とっさに何と答えて良いかわからなかった。「今みたいな生活の状態が平和と言うのよ」と答えたが、爆弾を知らない世代が平和を知ることは難しい。親の世代も爆弾を知らない。爆撃と言って想像するものが我々とは違う。戦争の話をして通じない。だんだんと戦争の実態が薄れていく気がする。武蔵野市では多くの犠牲者が出たので、風化させたくない。

【委員】若い人への継承は課題だが、伝えて理解してもらうことは難しいと感じた。五日市憲法草案の発見者である新井先生にご解説いただきながら研修できて良かった。

【委員】会議でもイベントでも学びの場となった。戦争体験者や学者から生で話を聞く貴重な経験ができた。特に11月の早乙女先生の講演が印象に残っている。

非常に学びのある1年だった。反省点として、どのイベントでも年齢の高い参加者が多い。会議では「若い人に伝えたい」という話になるが、小学校高学年、中学生、大学生でアプローチする方法が異なる。ターゲットをしぼることでより効果的に事業を行うことができると思う。

【委員】夏季平和事業の「ぞうれっしゃがやってきた」に感動した。また、平和の日イベントで早乙女先生の話が武蔵野市で聞いて良かった。研修会では、五日市憲法草案が発見された土蔵を見学できて感動した。個人的なボランティアで被爆者問題にも取り組んでいる。来年度も取り組みたいと思う。

【委員】夏季平和事業で「あの日のオルガン」を上映して良かった。また、「ぞうれっしゃがやってきた」を観て、役者さんは本当に心を打つ演技ができるんだと感じた。この2つに共通して「どこにも逃げる所はない」という言葉があって、涙が出た。その時代の人たちはどうやって生きてたんだろうと思った。何故戦争を止められなかったかを考えると悔しく思う。平和に貢献したいと思ってこの委員会に参加した。平和のつどいは来年度実現してほしい。

【事務局】昨年度から引き続き、実行委員の皆様には多くのことを教えていただいた。今年度は新しいイベントに多く取組むことができた。来年度もお力添えいただければと思う。

【事務局】中島飛行機武蔵製作所の存在は以前から知っていたが、実行委員会を通じてより詳しく知ることができた。来年度は戦後75年となる年なので、引き続き皆様と事業を開催していきたい。

【事務局】市民と協働で取り組むことが武蔵野の平和啓発事業の特徴の一つだと考えている。また、来年度からの第六期長期計画では、従来の「文化・市民生活」に平和が加わり、「平和・文化・市民生活」となった。皆様のおっしゃるように、武蔵野や平和を取り巻く状況は変わりつつある。今年は武蔵野文化事業団とおしばいを上演するなど、取組みを広げることが出来たのではないかと思う。この会議で話し合っ取り組むことが重要だと思うので、今後とも皆様のご意見をうかがいたい。

【副委員長】第六期長期計画に「平和」の文言が入って良かった。今年度は、パネル展を吉祥寺駅の南北自由通路で開催できたことが良かった。研修会で新井先生にお話をうかがうことができた。五日市憲法草案のように、埋もれてしまう可能性があることに取り組み続けて、新たな発見ができたということで、継続した取り組みの大切さを実感した。若い人はグローバルな気がするので、違う切り口から平和を考えてもらえたら良いと思う。コミュニティ協議会を通じて広がってほしいとも思う。

【委員長】今年度は盛り上がったと思う。子どもたちにどうやって伝えていくかを考えると、学校に取り上げてもらうのが良いのではないか。市内でも、平和教育をしている学校としていない学校とがある。子どもたちとどうやってつながっていくかが大事。学校と地域をつなぐコーディネーターもいるので、そういう人たちと何かできればと思う。市内には空襲された跡地が残っている。目に見えるものを残していくことが大切。

【委員】今年度は桜野小学校のジャンボリーと夏季平和事業の日程が重なってしまった。来年度もこの日程だと重なると思う。せっかく武蔵境地域で行うのに、

近隣小学校の行事と重なってしまうともったいないと感じる。

【委員】市立学校であれば中島飛行機武蔵製作所について教える行きやすいのではないかと。武蔵野市立小学校の児童には知っていてほしい。「わたしたちのまち」という授業で外に出る機会があるが、中島飛行機武蔵製作所の話はあまりしていないと思う。子どもだけでなく、親世代にも知ってほしい。

3 閉会